

# 第32回 静中・静高 関東同窓会総会 160人余の同窓生が集いました。

## 第三十二回 関東同窓会のご報告

杉山 順一（84期）

さる七月六日十八時より、千代田区大手町のKKRホテル東京に於いて第三十二回静中・静高関東同窓会総会が開催されました。

梅雨の頃でお天気を心配しましたが、この日は曇り空とは言え時折薄日も射し、会場から見える皇居の松の緑も真に美しく、遠くの銀座の夜景も色を添えてくれ、まずまずの当日の会場風景でした。

今年の当番幹事は84期で「団塊の世代」真っ只中、昭和四十三年に静高を卒業した面々が事務局を担当。何せ短期間の「突貫工事」での準備に「お前は昔から一夜漬けの試験勉強に強かった」「いやお前こそ夏休みの宿題を最後の一日で仕上げた」などと同期のよしみで言い合いながら、卒業以来三十八年振りの共同作業で何とか当日を迎えた次第です。

その間我々の準備作業の稚拙さを見るに見かねて関東同窓会の幹部の皆様、また昨年の幹事役であった83期の皆様には多くのご支援、ご協力を頂き本当に有り難くこの紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

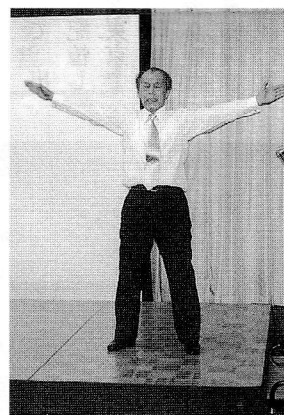
さて当日は十八時から総会が行われ全員起立しての校歌斉唱、静中・静高関東同窓会、清水汪会長（59期）の開会のご挨拶のあと野方重人副会長（77期）の司会進行により用意した総会議題の全てを出席者各位のご理解とご協力を得て原案通りご承認を頂き議事を滞りなく終わることが出来ました。

事業計画、会計報告を取り纏められました同窓会幹部の皆様、本当にご苦勞様でした。



# 静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会  
会報 第62号  
平成18年12月30日発行  
編集人 村松 貴彦  
(77期)



初代応援団長という山梨氏  
(73期) のエール

## エイズ予防対策は……

そのあと恒例となりました講演会に移り、今年は東北大学医学部の服部俊夫教授（84期）により「ワクチンのできる感染症と出来ない感染症」を忘れた日本のエイズ予防対策」と言う題でのお話を頂きました。

世界のHIV感染者は4030万人。毎年300万人以上の人々がHIVで死亡。特に中国やインドでは夫々500万、600万人以上がこれに罹りしかも益々HIV感染者数は膨れ上がっている由。

日本ももっとしっかりした予防体制を採らないととてもない事になる、との発表に会場は「熱い静寂」に包まれました。

「人類は1980年に天然痘を撲滅した。しかしその翌年エイズが我々の前に出現した」と言う服部教授の言葉に生きとし生けるものの「この世の業のようなもの」を感じた次第です。（講演要旨、4ページに掲載）

## 最長老、51期・原崎氏の乾杯で

## スタート（写真・右下）

十九時半、いよいよ懇親パーティーです。

まず静岡から駆けつけて下さった母校静岡高校の岩崎功校長先生と本部同窓会櫻井一男会長

（64期）のご挨拶。そのあと同窓会蔭山昌弘事務局長により「この夏静岡高野球部は甲子園にいけるのか」の現状報告があり、会場からは「頑張れ！」の声が飛びました。

乾杯は当日参加者の最長老原崎郁平氏（51期）により「元気のよいご発声頂き、いよいよパーティースタート」。

今年の懇親会参加者は約160人、彼方此方で談笑の輪が出来、用意したビールは瞬く間に追加となり、また静岡から取り寄せた「ワサビ漬け」と800枚の「黒はんぺん」も会の途中で全て無くなりました。

老いも若きも皆元気、明るいムードの中で衆議院議員塩谷立氏（84期）の国会報告を兼ねたご挨拶。「次期総理大臣はX氏でほぼ確定」の声に会場は「オー」と言うどよめきに包まれました。そしていよいよエンディングです。

参加者全員で応援歌の大合唱。一気にまるで魔法にでも掛かった様に先輩後輩関係なく「青春時代」に戻って仕舞いました。

人生の中でわずか三年間の時間を共有しただけの「静岡生活」ですが今日こんなにも大きく自分の生活に「懐かしさ」や「受けた教育の有り難さ」を感じるとは思いませんでした。

私は後日岩崎校長先生に同窓会出席の御礼メールを送りした折「静岡時代を心から懐かしむ、こんな卒業生が全国に沢山いる事を是非在校生諸君にもお伝え下さい」「しっかりと過ごした高校三年間は生涯を豊かにする」「今度の関東同窓会はその見本のような会でした」と記しました。

「時世の塵は深くとも万だと匂え花ざくら」これぞ静岡高精神と声高らかに逍遙歌を合唱し、最後に児島英男副会長の三本締め、野方副会長の閉会ご挨拶で第32回静岡・静岡高関東同窓会総会は無事閉幕致しました。

久しぶりに熱き思いに浸った夫々の期の皆様、会終了後も余韻覚めやらず三々五々夜の銀座へ、神田界限へと肩を組んでの散会となりました。

今回の関東同窓会は幹事期の84期の準備不足もあって清水会長以下同窓会幹部の皆様や前回幹事の83期の各位に随分お世話をお掛け致しました。

ここに改めて感謝申し上げますと共に次回幹事役の85期の皆様の奮闘！を祈念してこの報告文と致します。皆さん、来年もまたお会いしましょう。

関東同窓会諸君、  
ご承知おきください！関東支部（関東同窓会）  
ができた経緯

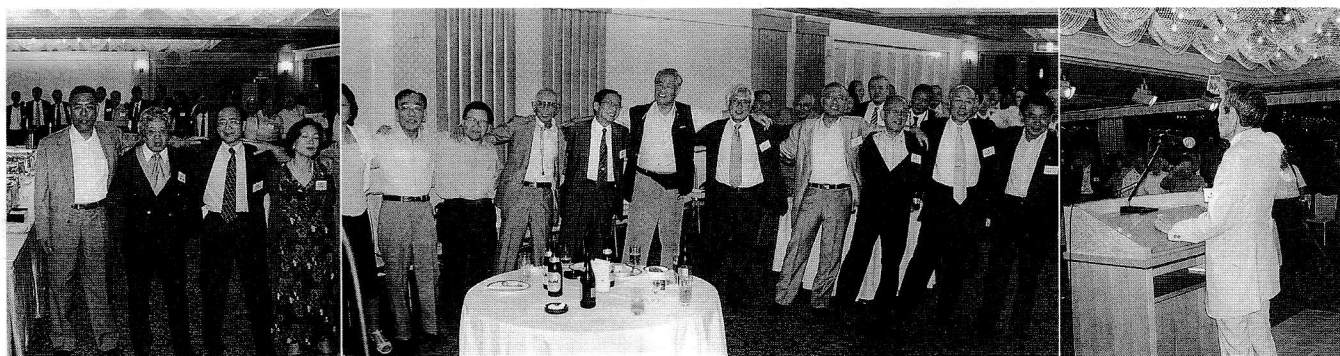
53期 鈴木 巖夫

小生が同窓会にタッチしはじめたのは、二度目に静岡に戻って来て暫くしてからであった。

その頃は真杉高之氏（44期）が会長の鈴木（株）の嘱託として本職の執筆業の傍ら、同窓会の運営のため、週に二、三回ほど事務室にいられていたが、その後、小生が鈴木与平会長（44期）と田中忠雄副会長（38期）の要請で同窓会の運営を委嘱された。

初めは授業の傍ら真杉先輩と仕事を共にした。当時関東の人々を一堂に集めてみようという気持ちで、東京で同窓会の親睦大会を計画した。東京駅近くのルビーホールを使って開くことにした。通信、連絡等すべて静岡の本部の事務局が担当した。ときは昭和四十七年四月十五日、土曜日だった。

この親睦大会は大成功で、出席者は二百人を越えたと記憶している。その後もう一度東京で親睦大会をもった。この時も前回以上の同窓生の参加者がいたが、東京の会を静岡の事務所で行うことが無理であり、自然消





減してしまった。しかし、東京の大会はその出席者が、本部で行う同窓会総会の出席者を遥かに越える会であった。

かねて昭和四十四年の初めに鈴木会長から、創立百周年について提案があり、年とともにあれこれと事務が加わってきた。その中で鈴木会長から東京を中心とした関東、名古屋を中心とした中部、大阪を中心とした関西支部を作ることが提案された。中でも名古屋と大阪には支部同様の組織が既にできていて、中部は松原春雄氏（49期）、大阪には渡辺修氏（45期）がいて纏めていた。名古屋の代表は勝沼六郎氏（31期）、大阪の代表は小沢凱夫氏（28期）という何れも大物であったが、この松原氏と渡辺氏にお願いして、既に基礎らしきものができていて中部と関西の広域支部は比較的容易にできあがった。

関東はその頃、同窓会としての組織はなく、江ノ島会という組織があって、李家孝氏（27期）が会長で江ノ島の恵比寿屋（永野清氏・35期）で毎年大会を行っていた。この江ノ島会の幹事が村松直氏（42期）であったので、村松先輩にお願いしたが、関東一円を纏めてもらうには余りにも多忙な方で無理であった。この村松氏の42期は、東京では極めて結束が固い期であり、宮澤次郎氏、柳川太郎氏、井出多米夫氏など実力者がいたし、殊に井出氏は実家の清水市を始め、静岡市にも良く来られたので、この井出氏に関東を纏めて貰うように依頼したが、皆仕事が多忙でその余裕のない人ばかりであった。

しかし、関東支部を諦めるわけにはいかない。そこで、何処をターゲットにしてそれを拠点に関東支部の設立をすべきか、鈴木会長と共に考えたが良い知恵がでなかった。そうしているうちに、たまたま小生の53期が静岡で定例の同期会を開いた。その席に同期の奥野孝君と月見里得知郎君が東京から出席してくれた。そこで今までの経緯を両君に詳しく説明した上で、二人（奥野、月見里）で関東支部の設立をやってみてくれないかと依頼したところ、何とかやってみようということになって引き受けてくれた。これで関東支部は何とか目鼻がついた感じ、鈴木会長にも早速報告して喜んでもらった。

これが関東支部の発足の始まりである。あとは奥野、月見里両君と奥野君の秘書の山田君という若い人の協力で今日の関東支部の基礎ができた。この二人の努力で現在まで続いている関東支部の源の出発点となった。そして、やがて関東支部の発足ということになった。宮沢次郎氏が会長、奥野君が副会長、月見里君が幹事長ということになった。滑り出せば後は順調に進むこととなった。そして地方支部の設立へと続いて行き、創立百周年の事業へとなるのである。

以上が関東支部の立ち上がりの概略である。関東支部（関東同窓会）に参加しておられる方は、この程度の事は承知していただ

けると幸いである。こうして小生は昭和五十六年三月の定年まで、事務局をまかされたのである。

## 計 報

関東同窓会の副会長を数年にわたり務めていただいた田中俊男さん（66期）が、今年六月十日逝去されました。享年七十四歳でした。

田中さんは若い頃より横浜の港湾関係の仕事に従事され、定年まで仕事一筋にやってこられたとのことでした。

学生時代はテニスで活躍し、社会人になってからはホームコースの湘南シーサイドCCに頻繁に出かけていたようです。

柩の中にはゴルフクラブが収められていました。遺影は静岡で行われた同級生の古希の祝いの集まりの時のものとかで、その時の楽しそうな様子を話しておられました。

告別式には66期の同期生が二十数名出席され、豪気といったいい田中さんの風貌を思い起こさせました。（77期 清水雅尚）

## ◎維持費（年会費）の納入にご協力ください。

事務局

### 年会費 納めて一息 年の暮れ

静中・静高関東同窓会は、私たちの同窓会です。  
静中・静高関東同窓会の活動は、すべて私たちの年会費です。  
静中・静高関東同窓会の会員は3300名（会報送先）。  
静中・静高関東同窓会で年会費を納めた人は531名。  
静中・静高関東同窓会の年会費は、一口30000円です。



## 【講演内容・要旨】

東北大学医学部の服部俊夫教授（84期）による「ワクチンのできる感染症と出来ない感染症」～忘れられた日本のエイズ予防対策

「天然痘」はエジプト時代から人類に脅威として存在してきた。しかしジェンナーによる「種痘」の開発により、感染者の数が激減した。そして1980年には、WHOが根絶宣言を出した。

このようにある種の感染症はワクチンにより制御できる。我が国の種痘も江戸時代、桑田立斎により精力的に行われた。彼は蝦夷地まででかけ数千人のアイヌ人に接種した。その功績はアイヌ種痘図として讃えられ、



医学史上の有名な絵として知られる。

北大、阪大にコピーがあったが、その本物を仙台の芹沢美術館が所蔵していた。当時の種痘法を知る貴重な資料となった。

天然痘撲滅宣言の翌年1981年に米国西海岸に奇妙な免疫不全症候群の男性患者が多発し、後天性免疫不全症候群（AIDS）と命名された。1983年には原因ウイルスがヒト免疫不全ウイルス（HIV）であることが明らかにになった。

## エイズの感染は性行為で：

予防できるワクチンは存在しないし、将来も開発されない

感染ルートは①性行為（特に男性同士は危険率が高い）、②血液（輸血や麻薬による注射器の回しうち）③母子感染、という3つの大きな流れによって世界的に感染者が急増し、現在4000万人余の感染者が現存し、ヒトの平均余命に及ぼす実質的な影響はタバコに次いで2番目であるともいわれる。

とくに現在悲惨な状態はサハラ以南のアフリカである。成人の感染者率が20%を超えている。この地域の最大の特徴は女性の感染率が男性を上回っているこ

とであり、女性が感染を防御できる体制の構築が望まれる。

しかし感染者数が最も多いのはインドで次に感染が爆発的に生じてしまったのはユーラシアの大国、インド、中国、ロシアである。2010年にはインド、中国ともに、感染者数が1千万を超えることが予測されている。それぞれの国に社会的事情が感染の爆発と密接に結びついている。

HIV感染を予防できるワクチンは存在しないし、将来も開発される可能性は低い。しかしエイズはいまや「死なない病気」になっているが、一生薬を飲み続けなければならない慢性疾患となる。社会的には仕事場などの通常の接触では感染が拡がらないということの認識と、また感染者には、カウンセリングにより、感染を広げない指導が大事である。

解剖学からみた感染の仕方を見ると、直腸は単層の円柱上皮よりできていて、吸収する機能を有していることから極めて感染しやすい構造をしている。また膣は多層の扁平上皮よりなる防御機構を有した臓器ではあるが、外傷や性病の存在によりその防御機構は壊れる。これらのことから直腸はウイルス感染に極めて弱い器官で性交は危険だ



ということ。また女性についてはゲルやクリームなどで受傷を防止する予防対策が有効だという教育は、重要なのである。しかし最も有効なのはコンドームである。タイやブラジルではコンドームの重要性を訴えるキャンペーンにより感染の減少をみ

ている。さらには安価な抗ウイルス剤の供給も大事である。

いま日本のHIV感染率は男性に高く、女性に低い。これがもし女性の感染率が高くなると、日本も爆発的に感染率が上がる恐れは十分にある。

（この項まとめ・服部俊夫 85期）



## 静岡の万葉を歩く

(三十三)

51期 原崎 郁平

浜松市貴布弥(旧浜北市貴布弥)

浜北文化センター敷地内に次の万葉歌碑が立っている。

あらたまの

伎倍(きへ)の林に

汝(な)を立てて

行きかつましじ

寝(い)を 先立たね

巻十四・三三五三

昭和六十三年十月建立

建立者 浜北市教育委員会

揮毫者大養孝(国文学者)

寸法は高さ百八十センチ 幅百五十センチ の自然石に本文が刻んである。左傍らに副碑(高さ八十四センチ 幅六十センチ)が立っている。

歌碑の所在地は天竜浜名湖鉄道、浜北駅の西方約百メートルにある。

歌碑の裏に次の文章が刻んである。「万葉集には天皇・貴族・宮廷歌人などの歌ばかりでなく、東歌や防人歌のように、地方の農漁村の庶民たちの歌も数多く

収録されている。この歌(巻十四・三三五三)はその東歌の一つで、「鹿玉の伎倍の林にお前

を立てさせてまちながら、今夜は行けそうにありません。先に寝てください。」という意味で、率直でひたむきな男女の愛を歌ったものである。

千二百余年も以前のわが祖先たちの素朴な人間性、その心情の輝きを見る思いがする。昭和六十三年十月建立 浜北市教育委員会 万葉歌揮毫者 大阪大学名誉教授 大養孝

当時の男女の交際は男性の方が行動的で女性性は受身であつたと思われる。

しかし、異性を待つ身の辛さは男性にも理解できるからこうした歌が生まれたのであろう。古代の万葉歌は当時の庶民の素朴な人情を伝えている。しかも、地方で使われていた訛のような言葉使いがあり一層読む人を引きつける。今から千三百年前にこうした短歌が一般庶民に浸透していたことは文化レベルが相当高かったものと思われる。浜北地方にもこのような人々が住んでいたことは今から考えても驚くべきことである。

たことは今から考えても驚くべきことである。

旧浜北市は平成十七年七月一日に新浜松市に合併された。新しい浜松市は旧浜北市、天竜市、舞阪町、雄踏町、細江町、引佐町、三ヶ日町、春野町、佐久間町、水窪町、龍山村等が合併してできた市であり、人口八十二万人の県下第一の都市となった。面積は岐阜県高山市に続く全国第二位の広さである。二〇〇七年に浜松市は政令都市となり、その時は旧浜北市が浜松市浜北区となる予定と聞いている。



## 近況報告・雑感

## こころ

人との出会いを、さらに人としての「こころ」を大切に

74期 藤原 經史

小泉政治も終わり、安倍政治へと移行された。小泉政治で勝ち組、負け組が色分けされ「金儲け主義」が蔓延、汗水流さず紙切れ一枚で何百万、何千万円の金が入る世の中になり、日銀の総裁までが、その渦中に身を置くと、日本の良識までもどこかに消えてしまったようです。

日本伝統の手づくりの巧みは今どこに。四年後の平成二十二年は平城遷都千三百年です。また伊勢神宮でも七年後の平成二十五年に式年遷宮六十二回目があります。

先日妻と伊勢神宮に参拝に出かけました。丁度神嘗祭に出会い、厳かな宮司さまの姿、そして玉砂利を踏んでいく足音に耳を傾けました。その厳かな足音に遠い昔からの日本のよさを感じた一人でした。

世の中がいかに変化しようと、変えてはいけないうものがありません。それは「こころ」ではないでしょうか。今の世の中、その「こころ」が右往左往するところに問題があります。伊勢神宮の式年遷宮の歴史の深さ、重みひとつとってみても「こころ」の不変さを感じます。世界の中でも、これだけ継続している行事は他にはないと思います。

「莊子」の中に「莫逆の交わり」という言葉があります。「相見て笑い、心に逆らうことなし」と。また易経には「不易」という一義があります。世界は絶え間なく変化(変易)する。しかしそこには一定不変(不易)の法則が貫いている。そしてその法則は陰と陽との対立、転化という平易簡明(易簡)な形式で表される。

いずれにしても、私たちは人との出会いを大切に、さらに人としての「こころ」を大切にしていけば、今の世の中の出来事も少なくなるのではないのでしょうか。

## 同期会情報

### 満八十歳、傘寿の祝い

静岡本部、関東・中部・  
関西支部合同の会

59期 朝比奈 正二

今回は、同期生の大半が満八十歳を迎えることから『傘寿の祝い』を兼ねて、場所も思い出の地、静岡で、合同の同期会をとり行うことで各支部の意見も一致し、その準備が進められてきた。そしてこの十一月四日(土) 十八時半より静岡駅前前の「ブケ東海」で開催した。

会は原暉君の司会で行われた。まず物故者に哀悼の黙祷を捧げた後、高野洋君の挨拶、続いて同日十五時より行われた同窓会総会に就いて清水汪君より報告された後、名古屋支部より参加の本告居光男君の音頭で乾杯、懇談に入る。

会場には岩本一男君の130号の大作二点が展示され、注目を浴びた。一点は、堀の方からガラス越しに静岡市役所の玄関を、他の一点は、松坂屋五階の通路より宝泰寺方面を描いたもので何れも「フोटリアリズムの手

法」による作品です。そしてこの二点の縮小版を岩本君より送っていただいたのでこの会報に掲載することができた。

「フोटリアリズムの手法」とは、新しい現代のリアリズムの様式を取り入れた風景画で、写生と写真の間に立って、現場の映像を心に焼きつけ、画家として、何を除き何を選び、また何かを加えて表現する技法。

岩本君は、静岡日立家電退職後、すなわち六十歳を過ぎてからこの道に入り、常に静岡の町を描き続けている。

また青嶋昭男君は、自分の音楽ホールを持つ音楽家で、この「青嶋ホール」についての話の中で、会場は年を経るにしたがって変化する。すなわちあるホールでオーケストラを指揮した際、どうもパイプオルガンとホールが良くハーモニーしないため残念に思っていた。

ところがその後しだいにホールがパイプオルガンになじむようになってきた。名演奏がホールに浸みついてきた。すなわちホールが音楽になじんできたという非常に興味深い話をなされた。

さらにちょうど一年前の当会報で紹介した海外鉄道技術協会

の最高技術顧問であり、日本モノレール協会の副会長の菅原操君より、中国をはじめ、韓国、マレーシア、ドバイ等各国に対するわが国のモノレール事業の活躍の現状についての説明があった。終わりに若き日を偲びつつ校歌を斉唱し、鈴木勇雄君の閉会の辞で別れを惜しみつつ散会した。

なお当日の参加

者は三十六名でその氏名は次の如し。

《静岡本部より》

青嶋昭男、伊藤義三、岩本一男、宇

佐美義夫、兼子善雄、梶原正次、河

瀬卓二、栗田源吉、

剣持益三、鈴木勇雄、高橋卓三、多々

良昭孝、坪田欣也、

永田一朗、長坂定男、長谷川総一、

長谷川邦三、橋爪

普、細谷致男、松

浦堅一、三浦孝一、

向井卓哉、望月靖久、森実、高野洋

原暉、志田昭八郎

《名古屋支部より》

本告光男《関東支

部より》小花敏郎

▲「寺のある路」130 F (1998)



▲「寺のある路」130 F (1998)



岩本一男 君



▶「ガラスの表情－クローズ」130 F (1996)▶



加野和男、勝呂清、清水汪、菅原操、田沢義彦、増田眞一、山本俊夫

岩本一男君と画歴 1925 静岡市生まれ(静中59期)、1981 静岡日立家電退職後、朝日カルチャー長岡教室に学ぶ。1990 静岡市美術家協会会員になり、県芸術祭に毎年入選、その後理事、県の会員。清水市文化センター主催、郷土作家シリーズ個展、油彩画個展を開いている。

## ◆雑感

### そろそろ人生の店じまい

77期 清水 雅尚

そろそろ人生の店じまいと書く、多くの先輩から「オイシみず! まだ若いじゃないか」と言われそうだが、もう六十四歳。何時あの世からお呼びがかかって不思議のない危険水域。気持ちはまだまだ若いと三十、四十歳の気持ちでいても加齢による体力の粘りの無さは徐々に現れてきている。

同期生の半分がリタイヤしているこの歳でも、まだ現役をやらなければならぬ辛さと日頃怠惰な自分を思えば仕事のあることによって追われる日常を過ごすことのできる幸せを感謝すべきかも知れない。

## 同期会はまだまだ続く、 継続が大切

56期 清水 逸郎

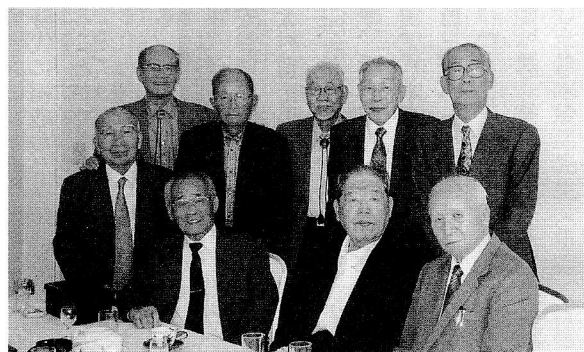
平成十八年の関東地区同期会は、十月十七日(火)十三時から三時間、KKRホテル東京で開かれた。

出席者は、青木良文、川崎博、清水逸郎、鈴木源一、成田六郎、萩原達雄、牧大勝三の八名に、静岡から山田勝也君が参加してくれた。出席の予定だった小菅正紀君は出発の直前に足が痛みはじめたため、また萩原文平君は交通機関の事故のため出席できなくなったのは残念だった。

またかねてから病の床にあった原田昇左右君は去る七月二日に亡くなった。彼の生前の活躍を偲び、ご冥福を祈って黙祷をささげた。

会は萩原君の元気な挨拶と彼の音頭による乾杯で始まった。話題はどうしてもお互いの体についてのが多くなったが、各人の近況、友人の消息、昔の思い出も盛んであった。とにかく元気でこの会に出席できた喜びを分かち合った。

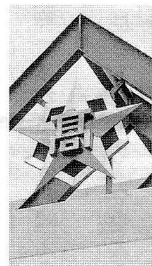
鈴木君は、体が不自由であるにもかかわらず、家人に支えられて出席してくれた。そして彼の明るい話し振りに一同勇気づけられた。



けられた。

牧大君は、今年も自作の美しい篆刻を見せてくれた。定年後に始めたが、すでに二十年以上の努力を積み重ねた結果、今ではすばらしい芸術品を作り出している。このように自分の好きなことに集中するのはまことに貴いことである。

話は盛り上がり、予定の時間も終わりに近づいたので、今後のことについて話し合った。結論はこれから出席する者が少なくなっても継続することが大切であるということになり、来年も十月の第三火曜日(十六日)に同じ場所、同じ時間に開くことを約束し、記念写真を撮り、岳南健児を高唱して散会した。



◆今年の静岡での同窓会総会では、校歌が四番まで歌われた。

「校歌が一番だけというのは寂しい。私たちはしっかり四番まで歌っていた」と喜んでいた先輩が多かった。関東の先輩たちにも同様の意見もあり、四番までの歌詞を掲載した。あなたはどのように感じますか

### 一、岳南健児 一千の

理想は高し 富士の山

八面玲瓏 白雪の

清きは 我らの心なり

### 二、至誠を色に 表はせる

唐紅(からぐれない)の旗幟(はたじろし)

義勇奉公 四つの文字

掲げて共に進むべし

### 三、龍爪山の 木枯に

青葉が岡の夏の日に

身心鍛ふ 大丈夫(だいじょうぶ)

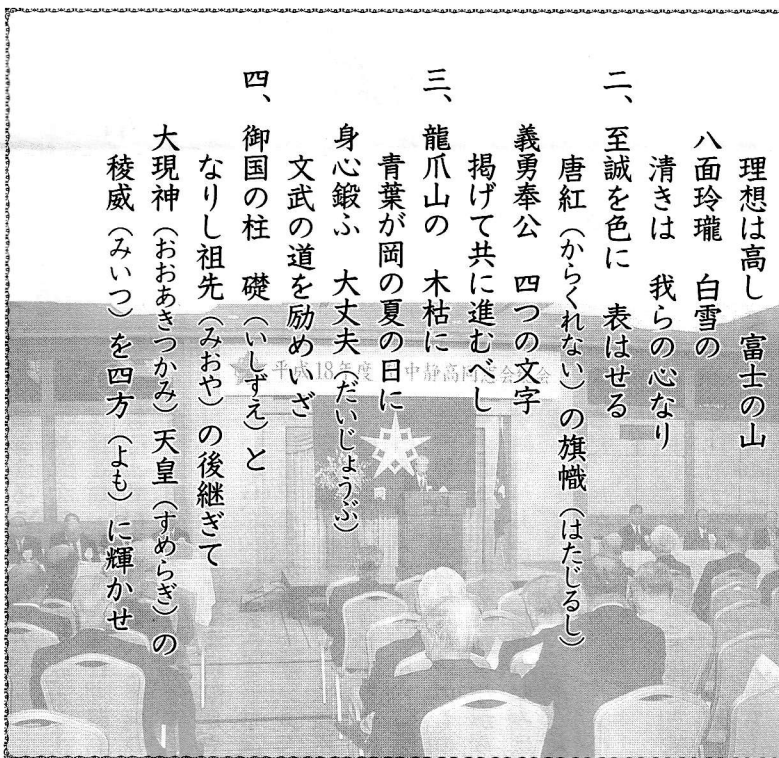
文武の道を励めいざ

### 四、御国の柱 礎(いしずえ)と

なりし祖先(みおや)の後継ぎて

大現神(おおあきつかみ)天皇(すめらぎ)の

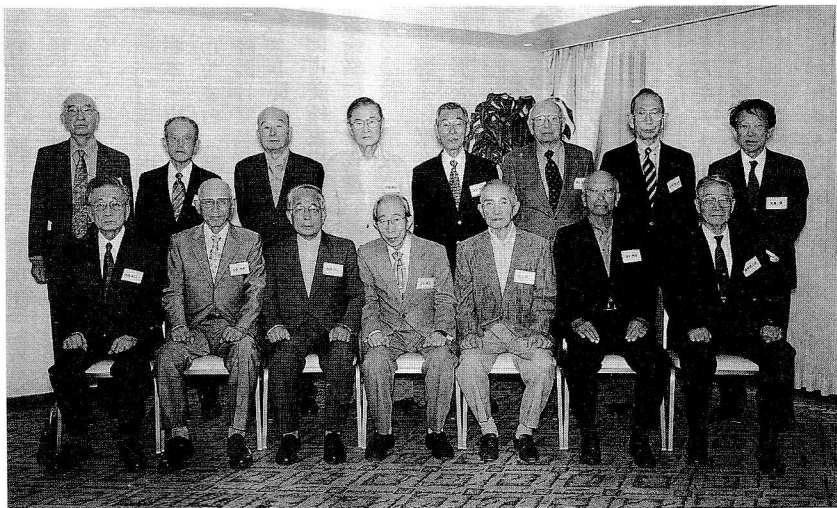
稜威(みいつ)を四方(よも)に輝かせ



## 「枯れて落ちる」のは まだまだもう少し先 戦後六十二年目の同期会

61期 黒川 泰三

平成十八年九月二十九日、静中61期関東地区同期会が終身幹事、大石次男君の尽力により例年どおり銀座キャピタルホテル新館で開催された。静岡から参加の曾根君を含め、出席者は十



静中61期関東地区同期会 平成18年9月29日 銀座キャピタルホテル

五名といささか少人数の会合となった(曾根君は来年四月の同期会総会の幹事)。

喜寿を越え平均余命八年と言われてみれば自然の流れと思うべきか。来年四月に開催される静岡での同期会の様子をみて、次回以降のことを考えることになる。先頃、新聞でみた都都逸(どどいつ)の「こぼれ松葉を あれ見やしゃんせ 枯れて落ちて二人連れ」といけば

儲けものというものである。

われわれ61期生は終戦の押し迫った昭和二十年三月末に慌しく四年生で卒業し、多数の者が陸軍士官学校、海軍兵学校などに入学して四ヶ月余終戦となって各々旧制高等学校等に

進学、平和な日本の再建に各分野で微力を尽くし、家庭を築いていつの間にか六十一一年が経った。あとは健康を維持し平穏な晩年を全うしたいものである。「枯

れて落ちる」のはもう少し先のことと思いたい。

今回の出席者が少なかったこともあり、全員から近況その他の話題、所見などを述べてもらうこととなり、手話のボランティア活動に励んでいる話に感心させられたり、各人の健康管理など参考になることも多く、少人数の集まりならではの有意義な同期会であった。

最後は恒例の校歌を斉唱して散会となった。同窓会報第一三〇号で53期の荒木先輩が書いておられることであるが、戦前の歌詞についていささかためらいもあったが、戦中派の最後として四番まで歌うこととした。ご提案の通り、何とかこれからの時代に相応した字句に差し替えることができればと、私も個人的には賛意を表するしだいである。

なお同期会出席者は次の通り。  
安藤厚、稲森慎二、大石次男、大村富士男、君島敏男、黒川泰三、清水照彦、清水澄夫、相馬孝、坪田昭三、浜田茂明、諸田実、八木貞二、山崎和夫、曾根稔三郎

## 近況報告&雑感 大腸ポリープ

73期 有光 一郎

人間ドッグに入る機会に大腸内視鏡検査を受けることになった。最初の仕事は味・量ともにもてあます二リットルの下剤を七十分かけて飲む。次はベッド、トイレ間の往復六回、約九十分の後ようやく腸の中がからっぽになる。

両膝を抱えて海老のようになり検査台に横たわる。この姿勢で眼前のモニターに映し出された自分の腸内を見る。円筒型の大腸の中をカメラがゆっくりと進む。中心部は暗く、周囲の大腸壁はライトに照らされ、濃淡のピンクが鮮やかに輝やいている。うつくしい。

昔、SF映画で見た超音速ロケットが宇宙空間を進むシーンを思い出す。つかの間の宇宙旅行を堪能していたら、突然カメラが止まる。「ありましたね!」の声を目をこらすと、たらこ状の小さな突起が映っている。腸壁を透して黒っぽく見える肝臓の上あたりにあり、色・形から悪性ではなさそうに見えるのだが……。

長さ十八ミリ、やや大きめのため検査では摘出できず写真を

撮影することになった。

検査を通して見つかったポリープはこの一個だけだった。写真を持って相談した美人で評判のS医師曰く。

「大きいものは悪性になりやすいから、すぐに取り除きましよう」と、そこらがセンサーに予約をされた。

仕方がないと観念し、三週間後にポリープを摘出する。腸壁に密着したあのたらこ状のものをどのように取るのか少なからず興味があった。腸壁の厚みは僅か二ミリ、穴が開いたら一大事だ。だが心配無用、専門家はうまくやるものだ。

まず、ポリープの本体に空気を注射する。ちょうど餅を焼いた時のように、ふくらみ立ち上がる。この根元に細いワイヤーをかけて焼き切る。これらのことを内視鏡で確かめながら的確に処理していく。それでも若干の出血があり、翌日の退院は不可であった。

後日談がある。摘出したポリープの病理検査結果が、さらに二週間後に出た。S医師は検査結果を読み終えると、おもむろに「有光さん、あなたのポリープはガン化寸前でしたね。取っというて良かったですね。ほっといたら一年後には大腸がんの手術を受ける可能性も大でしたね……」



## 関東支部部活動

### ☆関東同窓会テニス部活動☆

#### テニス部

#### 関東OB有志の会

67期 児島 英男

平成十七年度、第十三回のテニス会は平成十七年十一月十七日(木) 明治神宮外苑テニスクラブで開催された。幹事役の児島が急な腰痛のため参加できず、急遽立花雅一氏(68期)と山中博司氏(73期)にお願いし開かれた。

夜は北青山の中華料理店『日

比谷園』で懇親会を開催した。

当日の参加者は次の通り。清水汪(59期)、諸田実(61期)、柴田克朗(63期)、岡村英二郎(67期)、柳沢学(68期)、立花雅一(68期)、増井良敏(68期)、大地不二雄(70期)、川端正良(70期)、清水雅彦(72期)、山中博司(73期)、大河内久(73期) 写真右上

\*\*\*\*\*

また、平成十八年度の第十四回テニスは平成十八年十月二十七日(金) 明治神宮外苑テニスクラブで秋空の下、風もなく絶好のテニス日和の中、全員昔に若返り楽しいプレーに興じた。毎年お元気で参加されておりま

した鈴木敏郎先生(生物)は体調が悪く参加されませんでした。

いつもお元氣な清水汪氏(59期)、諸田実氏(61期)、美しいフォームで力強いテニスをされる大地不二雄氏(70期)、山中博司氏(73期)、静岡のテニス協会の会長で活躍されている柳沢学氏(68期)、大石久氏(72期)も静岡から参加され元気にプレーされた。女子プレーヤーの吉野文江氏(84期)、杉山由紀子氏(85期)も初参加され会に花を添えていただいた。

夜は北青山の中華料理店『日比谷園』で懇親会を開催、柳沢学氏より静岡テニス協会の功労者であり、静岡テニス部が大変お世話になった浜下市造氏が今年一月九十四歳で逝去なられたとの報告があり、全員でご冥福を祈り宴会に入った。

清水汪氏より旧制静岡のテニスコートを自分たちで造った苦労話等、昔話に花が咲き、またの再開を誓って散会した。当日の参加者は、清水汪(59期)、諸田実(61期)、児島英男(67期)、岡村英二郎(67期)、柳沢学(68期)、立花雅一(68期)、大地不二雄(70期)、大石久(72期)、清水雅彦(72期)、山中博司(73期)、吉野文江(84期)、杉山由紀子(85期)の十二人。写真左下

## 関東地区

### 叩高ゴルフ会

77期 清水 雅尚

十月二十日、川崎国際生田ゴルフ場で行われる予定のコンペは、あいにくの天候で中止となりました。

また来春六月ごろ予定したいと考えておりますので、多くの同窓生をお誘い合わせご参加ください。なお、前回のコンペの成績は次の通りです。

一位 三浦位通(77期) 72・6  
二位 望月 智(73期) 72・8  
三位 仁科光司(77期) 73・0  
なおベストスコアは、40・42トータル82でラウンドした山中博司(73期)。(敬称略)

「！」と告げられた。

なんとという悪運の強さだ。S医師の的確の判断により救われたことにただ感謝あるのみです。

今、日常を健康に暮らしている有難さをつくづく感じている。関東同窓会の皆様には、健康への配慮を日頃から十分にされていることと思いますが、さらにさらに自分の身体は自分でチェックして守るほかありません。何といってもあなた一人の身体ですから。

### 秋の夜長をピアノ鑑賞で

97期の紫郭恵(しば ひろえ)さんが東京と静岡でリサイタルを催した。東京では十一月十六日、浅草・アートスクエアホールで、静岡では十一月九日静岡駅前・AOI音楽館での演奏会。今回はベルギーのフルートソロリスト奏者、バートン・ドランダー氏と共演したもので、曲はモーツアルトのソナタやドボルザークのソナチネなど。

知る人ぞ知る紫さんが静岡卒業後単身ドイツに留学、ピアノ一筋レッスンを受けてきた逸材。「ピアノとフルートの相まった楽想は高唱な音色となつてすばらしかった」と聞き入っていた聴衆の一人。たまには同窓生の活躍ぶり、音楽鑑賞にでかけてみたらどうだろう。

第13回テニス部関東OB会



第14回テニス部関東OB会



## 64期情報

## ゴルフのこと

佐野 旭

懸念された秋雨前線も遠ざかり「抜けるような青空」と「夏を想わせる日差し」の十月十日、第44回関東・静岡合同のゴルフ会を足柄森林CCで開催。

年々参加者が少なくなり、寂しい限りだが、61期の大石次男、清水照彦の両先輩に、66期の森山秀夫兄の参加もあり、自称「元氣印」の十四名が集まった。当日から東名高速自動車道集中工事が始まるとあって「若干早めに出発して…」とお節介幹事（小生です）の言葉に急かされてか、予定時刻よりはるか



に早く全員集合。

「時間はたっぷりあるぞ」と早速バターの練習組、コーヒード談笑組等々、各自万全の準備の上でスタート。

優勝は野澤正憲君。二度に亘る「飛鳥Ⅱ」クルージングによる「非日常生活」で十二分にリフレッシュできたせいか「半年間一度もクラブを握っていない」というのにネット81という見事なスコア、四度目の栄冠に輝いていた。

準優勝は風間政彦君。連日の練習場通い（時には弁当持参）という日頃の精進（体力？）とスタート前のパッティング調整に充分時間を費やした成果で、グロス86、ネット82でまたもベスグロ賞とダブル受賞。さらにニアピンも二つ獲得、まさに「ゴルフの虫」の名に恥じぬ成績。パーが八ホールは立派。



三位は漆畑茂君。風間君と同ネットだが、ハンデ差で盾に届かず。彼が九月末までマレーシアに八十日余のロングステイ、その間十数回（数十回とも）に及ぶゴルフプレーが幸いした模様。

ブービーはこのところ調子が戻らない永田進一君。「もう一度ぐらい優勝したいと思っていて、出だしから躓いて……」と無念の弁。ニアピン賞は前記風間君のほか、小川哲司君と佐野旭。（写真上）

## 七夕の「しあわせ」

中野 実

我々の静中生活五年間は、終戦を境に二年半ずつ前後に分かれる。入学したのは、昭和十八年四月、桜の咲く校門を見上げながらの長谷校舎、卒業は昭和二十三年三月、戦後三番目の校舎、旧静岡34連隊東御門を後にした。この間の消息は『回想 静岡中学校戦中―戦後の激動期を生きて』に詳しい。関東64期会は今年も七月七日J・R山手線田町「道灌かがり」で行われた。第一回は「新宿聚楽」で、以来場所は幾度と変わったが、日取りは決まって七夕、今年は四十九回を迎える。

本場の黒はんぺんを手土産に

静岡から七人が合流して総勢二十五人。懐かしい味に会は盛り上がり、静岡弁が各所ではしゃぐ。頃合いよしと、幹事は大声で恒例の一人三分間スピーチ宣言。

年の功でみんな話が旨い。面白い、もっと聞きたいと周りがせがんでも、幹事は茶碗を叩いて「時間だ、次の番だ」と容赦ない。順繰りに長短折り合いついた会の進行に耳を傾けながら、みんなの屈託無い楽しげな顔を見てみると、自分も一緒に楽しい「しあわせ」な気分になる。

一方あの五年間のことを思い出すと、本当に「きびしい」時代を過ごしたものだと思う。戦局急迫を告げる入学早々の四月、山本五十六連合艦隊司令長官ソロモン上空で戦死、五月アッツ島守備隊全滅。あれが敗戦に向かう転機だった。一年生の夏は袖師の遠泳と龍爪山の夜行軍、この頃から通学団単位の勤労奉仕が段々増えだす。

二年生の夏は焼津の海洋道場で合宿訓練。炎天下、屈強な下士官が海軍体操、手旗、索条、カッター競争でしごく。冬には凍りついた田畑の暗渠排水。昭和十九年十二月に東南海地震、災害復旧に何回も通った清水。その後の終戦までは、思い出すのも恐ろしい。艦載機の跳梁、B29大空襲と街の全焼、艦

砲射撃で東海道線分断。

戦災、終戦後の校舎は、住友三菱、城内と二年半に三回移転したが、学制改革のため入学は同期でも学歴は四年終了、五年卒業、六年卒業と区々。陸海軍学校からの復員や疎開、引揚者の編入なので転入出は頻繁だった。雨降りには騒然かつ公然と傘が許された通称馬小屋教室。然るべき筋からの命令で何箇所も塗り潰した歴史教科書。黒板に書いては消しなお書き続ける先生に遅れまいと焦った徒然草、奥の細道。記憶力旺盛な今の歳なら今日のことは今すぐ全部覚えてしまえと物理の授業は筆記ご法度。

かにかくに「きびしい」過去のあれこれと、今の「しあわせ」との狭間を行き来しながらあらためて戦中戦後の激動期をとものに生きて生き延び、生き永らえた「しあわせ」を実感し感謝するうちに「道灌かがり」の夜は更け、最後に校歌を斉唱、第五十回の再会を約して散会した。会の参加者は次の通り。

関東から稲見、岩本、遠藤、栗田、杉本、鈴木（明）、竹内、塚本、長島、永田、仲野、野澤、長谷川、蛭川、益頭、松下、柳田、山本の18名。静岡から石原、海野、片山、近藤（昭）、塩津、山崎、吉井の7名。（写真上）



## 思い出は旧師の ニックネームとともに

鈴木 俊彦 (68期)

私は68回の卒業生だが、静中への入学は昭和二十年だった。長谷の校舎が戦災で焼け、東草深の我が家も焼けて、美和村の山奥に転居したが、赤痢などの重病に見舞われた。

一命をとりとめた後は、磐田郡の親戚宅に移り掛川中学に転校したものの体力が続かず休学。翌二十一年に一年生をやり直したのち、二十二年春、小鹿の校舎に戻った。のち城内の旧兵舎に移って二十七年に卒業した次第である。

そういうわけで、中学入学から高校卒業するまで七年を要したが、思い出深いのは昭和二十年四月から六月まで二ヶ月余を過ごした長谷の校舎でのことである。

クラスは一年三組、中村藤平先生の担任だった。物理と化学を一緒にした「対象」の先生で、古めかしい階段教室で力の合成(ベクトル)やマイクローメーター・ノギスの原理などを習った。五月下旬か六月頃の間テストの出来が偶然良くて、「どうだい。

陸軍幼年学校を受けてみないか」と藤平先生から打診を受けたのは光栄であった。

今思えば敗戦色の濃厚な時代で、入学前の三月末の空襲で、入学予定者が数名死去していた。入学試験の口頭試問では、間処武夫校長から「硫黄島の玉砕をどう思うかね」と尋ねられたものである。暗い一室、沈痛な面持ちで問いかける校長に、「私たちが皇国のために死ぬ覚悟でがんばります」と答えたが受験生誰もが同じ答えであったに違いない。それなのにまるで初めて聞く言葉であるかのように、大きくうなずいた校長の誠意に心打たれた。

### 敵性語の英語は授業続行

英語が敵性語と見られていたこの時期に、敢えて英語の授業を続行されたのは、間処校長の英断であつたらう(中学校によっては英語の授業を廃止していた学校もあったことを、のちに知った)。「そんなこんなじゃ、静中の生徒とは言えんぜ」も、間処校長の口癖であつた。

私たち新入生は、軍事教練を受けた最後の年であつた。ションジイ(ションないジイさんの略)という仇名を持つ後藤又一

教官の訓練は格別に恐かった。少しでもたるんでいると見られたら、頬を強くつままれ、二、三回揺さぶったのちに地面に突き倒される。まことに残酷な仕置きで、ついニヤリと歯を見せた桜井昌一郎さん(のちの三塁手)がションジイの手にかかったのを覚えていた。のち一塁手として活躍した堀井寛さんもクラスメートだった。

国語の先生は「お嬢さん」と呼ばれた温和な松永章先生で、山部赤人や柿本人麻呂など万葉名歌を教えていただいた。英語は、耳の裏に手術跡の穴があつたことから「アナちゃん」と仇名をつけられていた三浦朝治先生。のちに本校の校長を務められたらしい。

数学は「マンジュー」こと高原真重先生と、「チャボ」というニックネームがピッタリの草谷時次先生のお二人だった。「マンジュー」は「マジュー」というお名前から付けられ、重々しい声で比例・反比例の概念を教えられた。

草谷先生は、一つ一つ教えたあと、必ず「わかった者？」と手を上げさせた。同じような状況で、「モトキッちゃん」こと本告亮一先生は、「お前らわかるかい? わから

んだらう。お前らバカだからね」と、中味はキツイのだが、温和な笑顔で、しかもゆったりとした佐賀弁で言うので、少しも腹が立たなかった。工作は「職工長」こと水野光太郎先生。プール監督のため「ブーカン」という仇名の家永敬三先生もおられた。「象」は図画の村上義政先生。「小僧」は国語の先生で、大小の対照が面白かったが、お名前は思い出せない。

こうして旧師のことを思い出すと、本名よりも仇名が先行するし、仇名しか覚えていない先生もいる。それにしても静中時代の諸先輩は、実にピッタリニックネームを付けたものである。そのセンスの良さには敬意すら覚える。

わずか二ヶ月余しか学ばなかった長谷の校舎だったが、玄関を入って左手に、野球部の全国優勝記念写真が飾られていたことが忘れられない。大正十五年夏、若十三年生の左腕、上野精三投手―福島録捕手のバッテリーを中心に甲子園制覇を成し遂げ、真紅の大旗を駿河路に翻させたナインの写真を、後輩の一人として誇らしい思いで見詰めたものである。当時の野球部長が中村藤平先生だった。

昭和五十年前後、関東同窓会

で知り合った上野先輩と、しばらく文通を交わしていたたく仲間となった。私が野球史の拙稿を先輩にお送りしたのが縁で、麗筆のご返事を何度もいただいた。当時の優勝ナインのうち、小河直人左翼手の未亡人には、関東同窓会長を務められた上杉重吉先輩から紹介していただいたことがある。

戦後、城内の校舎では、堀孝先生がホームルーム担任だった。「キンペイ」という仇名の由来はトイレの小用で、ペーパーを使用されることから来たらしい。歌舞伎の女形のような白面の先生で、PTAで訪れた同級の大石康博君の母堂が「キレイな先生!」と賞賛されていたことも思い出す。城内では、長身の山下精寿先生(物理)が「荷おろし」。私の所属していた新聞部顧問の田中一郎先生が「ライオン」。中学時代の担任で数学の渡辺秋良先生が「キャベツ」とともに髪型から付けられた仇名。そして体育の平岩二三夫先生が「ギャング」。同じ体育の剛力重和先生は本名と仇名がそのまま重なってはおかしかつた。中学―高校の七年間の思い出は、お世話になった先生方のニックネームとともに、いまや懐かしいセピア色の世界となっている。

## 只今青春！

## 六十八歳のライブ

73期 羽山 武

昨年六月の関東同窓会の席で、山口公子先輩や同期の後藤孝子さんたちから「中西英一君が仙台のライブハウスで歌っており、評判になっているらしい。追っかけをしようと思うので、秋になったら東北の温泉とからめて、仙台へのツアーを計画しなさいよ」とのご下命があった。

静高同窓会の名花たちと一緒に秋の仙台を訪れるのも一興と、一も二もなく安請け合いをしてしまったが、その後身辺慌しくなり、気にはなっていたが年を越してしまった。

仲間内からそれとはなく催促



ライブ中の中西氏

もあり、中西君にスケジュールを問い合わせたところ、仙台でのライブは自分一人ではないし、遠い仙台まで来ていただくのも大変だ。それに仕事の合間を見えて出かけるので予定として組むことが出来ない。ただ自分は小さなライブハウスのような場所

で歌いたいので、力を貸してくれないかとのこと。

またまた安請け合いをする羽目となった。彼の歌は玄人はだしであることは知っていた。

もう二十年前、バブル華やかな時代、私の勤務地の福岡に、彼を含む四人の遊び人が来て、博多の歓楽街中洲で痛飲したことがあった。

その時、彼の歌を聞いたクラブのママが「中西さんは単に上手といったレベルではなかろ。立派なエンターティナーだ。

私が応援するけん本格的に歌手をめざされたらどげんね」と、絶賛しきりであった。

ちなみに彼女は博多を代表するクラブのオーナーで、芸所、博多のその道の有力者である。その後会うたびに彼の消息を聞かれたものであった。色浅黒く、陸上競技で鍛えた強靱な体躯、円空仏のような苦味走った風貌、加えて甘い歌声とくれば「いい女」ならずとも追っかけたくなるのも

むべなるかなである。

何よりも古希を目の前にして同窓生を相手にライブをとの意欲と自信に心打たれた。早速、数名の協力をとりつけ、こんなことに関心を示しそうな連中に通知したところ、すぐに予定人員を上回る参加申し込みがあった。

浦田、後藤（弘）先輩、同級生の友人、静岡からの参加もいただいた。こんな経緯で六月二十五日「中西英一スタンダード、オールディスライブ」は彼の音楽仲間の伴奏で、銀座のスナック「カパラナ」で始まった。「アメージンググレース」を皮切りに、「エルビス・プレスリー、ペリーコモ、ディーン・マーチン等のハワイアン、カントリーウエスタンを含む誰もが知っているスタンダードナンバーが二十四曲披露された。

主な曲は「愛さずにはいられない」「マイボニー」「珊瑚礁の彼方に」「ツウヤング」等佳き青春時代の感慨にたっぷり浸った二時間半であった。いまだにビジネス最前線にありながら、ヴォイストレーニングを欠かさず、歌の世界で多くの人に楽しみと勇気を与えてくれた彼の生き方に心から拍手を送り、今後、いっそう活動の幅を広げ、ステッブアップを期待して散会した。

## 静岡高校本部便り

## 静岡で平成十八年度、同窓会定期総会開催

十一月四日の土曜日、静岡センチュリーホテルで定期総会が開かれた。会は式次第にしたがい議案を報告、了承。そして記念講演が北海道大学教授・望月哲男氏（85期）から語られた。演目は『文学から見たロシア、ロシアから見た世界』。普段余り聞きなれないロシア文学について、ロシアの文豪、トルストイを通して興味深い話をいただいた。さらに懇親会は場所を変え、盛大に催された。参集した同窓生は七百人を上回り、関東支部からも清水会長（写真右前）ら多くの関東支部員も駆けつけ参加、会を盛り上げていた。



お茶の心を伝える

# 愛国製茶

代表取締役 馬場 泰男(64期)

本社 東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL03-3207-1611(代表)  
高田馬場店 東京都新宿区高田馬場4-11-12 TEL03-3633-6611(代表)

「関東と本部では規模が違います。これだけ大勢の参加者がいると、話題も多く参加者も楽しめます」と清水会長。そんななかで来賓として出席いただいた岩崎静高校長の挨拶のなか、教科の未履修についての件があり、言い訳に近い説明に、「言い訳はいいから素直に反省し、正しくやり直せ」と野次が飛んでいたりした。結局素直に校長が陳謝、滞りなく会は催された。



いろいろな情報

野球部情報

春の甲子園への道は遥かに遠く基礎から出直し？

来春の選抜甲子園出場を決める新チームによる予選会が、夏の大会終了後の八月後半からはじまり中部地区一位で通過した静高チームは県大会にベスト8まで進出。

で、対戦したチームは常葉菊川高。結果は3-12、7回コールド負け、春の甲子園の道は絶たれた。この試合応援に来ていた田口一男、野島譲の元静高監督は「相手チームをコールドに

したことはあるが、こんな無様な試合、しかも初回到10点も取られたような展開は一寸記憶にない」基本からやり直す必要があると苦虫を噛み潰した表情で草薙球場を後にしていた。  
なお、常葉菊川高は東海大会で準優勝、春の甲子園出場を確定させている。静高の新チームは表の通り。新主将は一年のときから外野手、レギュラーとして活躍、今期から捕手としてチームをまとめる越智が務めることになった。

静岡市内の繁華街でタバコ禁止

関東圏ではすでに数箇所喫煙禁止地区があるが、母校のある静岡市でも十

月からタバコ禁止条例が発効された。

「静岡市路上喫煙による被害等の防止に関する条例」が正式

新チームの顔ぶれ (秋季静岡県大会冊子より)

守備位置	名前	学年	身長・体重	投・打	出身中学
投手	大村 豊	2	174・70	左・左	東海大翔洋
捕手	越智 英貴	2	176・74	右・左	菅 生田
一塁手	柳館 俊	2	181・81	右・右	南生田
二塁手	村松 大地	2	166・68	右・左	東海大翔洋
三塁手	板倉 亨佑	2	168・65	右・左	浜 岡
遊撃手	山崎 大輝	1	170・68	右・左	東海大翔洋
左翼手	田島 駿一	2	170・68	右・右	中 島
中堅手	平川 哲也	1	168・64	右・左	長泉北
右翼手	稲葉 浩希	2	178・71	右・右	吉 田
控	増田 翔太	2	176・60	右・右	安倍川
控	白鳥 翔也	2	179・72	右・右	荏原四
控	吉澤 秀隆	2	181・72	右・左	付属静岡
控	大石 新悟	2	178・77	右・右	初 倉
控	鈴木 祥生	1	172・72	右・左	六 元
控	大石 幸紀	2	178・77	右・右	吉原五
控	斎藤 俊	1	175・79	左・左	沼津五
控	三田 将司	1	172・75	右・右	藤 枝
控	渡邊 貴大	2	166・71	右・左	誠光学園
控	佐藤 心	1	167・57	右・右	中伊豆

「静岡市路上喫煙による被害等の防止に関する条例」が正式  
条例名で、呉服町、七間町などの繁華街地区がその対象。喫煙禁止地域には写真のようなのぼりが掲げられて



いる。現在は試用期間ということで、喫煙しても「注意」されるだけで罰則は適用されないが、平成十九年四月からは「五万円以下の科料」を課せられることになる。

事務局より

御願います。会報が住所不明で戻ってくるケースが多々あります。ご面倒でも住所変更の際は左記へご連絡いただくとともに、同期の方、友人知人にも住所変更がありましたらお知らせください。

会員数が多いので、お名前と一緒に〇〇期（不明のときは年齢）と連絡先をお伝え願います。

連絡先・野方法律事務所内  
静岡・静高関東同窓会

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-7・3  
敷下ビル六階

TEL 03・3251・2348  
FAX 03・3257・0827

(87期 高橋宏)

訂正とお詫び

\*前回の会報、61号で年会費（拠入金）納入者の年度が平成十八年度とありましたが、平成十七年度の間違いでした。大変な間違いをしたこと謹んでお詫び申し上げます。なお、関東支部の会計年度は四月に始まり三月に終わります。因みに静岡本部は十月から九月になっています。

楽しく明るい

原稿を募集します

同期生の活躍、同期会の開催予告、開催した時の良い情報をお寄せください。

加齢とともに健康の話題が多くなっているようですが、暗い話は結構。こんな鍛錬・気分転換、サプリメントで人一倍元気になった等、思わず他人に話したくなるような貴重な体験談を執筆ください。お待ちします。

原稿は上記宛て  
次回の締切日は四月末日

編集後記

◇いつも原稿締切日にならないと何ページになるか分からず苦労するのですが、今回も変則14ページになりました。ご了承ください。

(77期 村松貴彦)

会報印刷所・マコト印刷株

板橋区大谷口北町84・1

TEL 03・3972・9955

石（墓、石碑）のことなら  
(株) イシフク

望月 威男 (77期)  
熊野雄二郎 (84期)  
望月 茂樹 (101期)  
望月 秀康 (107期)

〒421-1224 静岡市葵区飯間 71  
TEL 054-278-6610

関東の人に紹介したい良い環境

八王子  
東京霊園

〒193-0826 東京都八王子市元八王子町  
TEL 0426-61-6734

〇お墓、石碑、建材、石のことなら気軽に相談ください。

## 鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

〒424-0942 静岡市清水区入船町11-1  
TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)  
京浜支店 〒105-0011 東京都港区芝公園1-2-12  
TEL 03 (3432) 7152

## 日本レーベル印刷株式会社

代表取締役会長 岩井平一郎 (57期)

本 社 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号  
TEL 054 (262) 1111(代)  
東京支社 〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F  
TEL 03 (3272) 4651 (代)

## 株式会社 富士越化成

代表取締役会長 野澤正憲 (64期)

〒140-0004 東京都品川区南品川2-17-11  
TEL 03 (5783) 3841  
FAX 03 (5783) 3755

## 松下税理士事務所

税理士 松下晴一 (74期)

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-2(矢板ビル4F)  
TEL 03 (2354) 8891  
FAX 03 (2354) 8857

## 東京無線タクシーグループ 公和自動車交通株式会社

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町3-3 ☎03-3269-3281

### 都心のオアシス・ゴルフ練習場 (株)公和ゴルフセンター

大江戸線・若松河田駅隣り ☎03-3202-6558

代表取締役 山中博司 (73期)

## 自動車・火災・傷害保険 大 高 保 険 事 務 所

代 表 清水雅尚 (77期)

〒150-0011 東京都渋谷区東3-15-8  
TEL 03 (3406) 9350  
携帯 090-7800-3767

同窓会で人の輪を!!

## 野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3  
敷下ビル6F  
(TEL) 03 (3251) 2348  
(FAX) 03 (3257) 0820

## \*昼2時より夜11時まで診療\* タカラ歯科診療所

代表 フラ シナ アキ オ 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分  
TEL 0120-376-480  
FAX 03-3710-8847

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

## 鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17  
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848  
E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……首都圏中心に80店舗

## 株式会社 アイセイ薬局

健康と幸せを願って

代表取締役 岡村幸彦 (93期, 応援指導部)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5  
TEL 03 (5651) 7200  
<http://www.aisei.co.jp>